

## 国の文化審議会 答申発表

令和2年から実施してきた発掘調査などによって歴史的価値が明らかとなってきた大桑城跡。市は、令和7年8月に国に対して国史跡指定について意見具申を行いました。そして、12月19日に開催された国の文化審議会において、大桑城跡を国史跡に指定するよう、文部科学大臣に答申されました。

今後、官報告示を経て正式に国史跡指定となる見込みです。指定されると、市初の国指定史跡となります。



### おおがじょうあと 大桑城跡

- ▶文化財の種類 史跡
- ▶時代 室町時代
- ▶城主 美濃国守護土岐氏

#### 土岐氏の居城として

#### 栄えた大桑城

大桑城跡は、戦国時代に美濃国守護土岐氏により築かれた山城跡と城下からなる遺跡です。山城跡は古城山（標高407.5m）山頂一帯に築かれており、城域は東西約860m、南北約470m規模で、北東から南西に延びる主尾根筋や、主尾根を挟んで北側の比較的傾斜が緩やかな谷筋を中心に曲輪<sup>くるわ</sup>や石垣などが確認できます。南麓には四国堀と呼ばれる堀と土塁の痕跡があり、その内側に城下町が展開する構造です。

諸説ありますが、長良川の大洪水をきっかけに、当時の守護土岐頼芸<sup>とよのり</sup>が拠点を移したと考えられる天文4年から同16年までの間、守護所<sup>※2</sup>もしくは土岐氏の重要な拠点として機能したと考えられます。

令和2年から6年にかけて実施した調査の結果、大桑城跡は保存状態が良好で、16世紀前半から中頃に機能した政治的空間と居住空間を備えた守護の拠点城郭であることが分かり、戦国時代における守護大名の本拠地の構造を知る上で重要な遺跡として評価されました。

※1曲輪…土を削る、盛るなどして造られた人工的な平坦地

※2守護所…守護の居住施設であり、一国支配の拠点となる場所

# 特集 大桑城跡 国史跡指定へ



# 国史跡への軌跡

令和2年から国史跡指定を目指し、総合調査を始めた大桑城跡。その軌跡をたどります。

## 令和2年

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」に大桑城跡が登場し、一躍話題に。市内外から多くの人が大桑城跡を訪れる。

## 令和2年7月

第1回「山県市大桑城跡調査検討委員会」



▲曲輪群の出土遺物

## 令和3年9～12月

伝「台所」と曲輪群で発掘調査  
→伝「台所」では、庭園と建物を確認  
→曲輪群では、中国産磁器、かわらけ※3などの多量の遺物を確認

## 令和5年

出土遺物の整理



▲大桑城跡総合調査報告書

## 令和7年3月

調査結果をまとめた  
総合調査報告書を刊行

※3かわらけ…素焼きの皿。酒宴などの儀礼の場で使用された

## 令和2年

## 令和2年4月

総合調査の開始

## 令和3年

## 令和2年10～12月

伝「岩門」発掘調査  
→巨石を用いた城門を確認



▲伝「岩門」調査時の様子

## 令和4年

## 令和4年8～12月

伝「台所」と曲輪群で発掘調査  
→曲輪群では、両側面に石垣を構えた中央通路を確認



▲中央通路と両側面の石垣

## 令和5年

## 令和6年

報告書の執筆

## 令和7年

## 令和7年8月

国に対して国史跡指定について意見具申

## 令和7年12月

国の文化審議会での文部科学大臣に答申

## 令和8年

## 令和8年中

市初の国指定史跡となる見込み



山県市長 林 宏優

当市には、国指定重要文化財「白山神社拝殿」（東深瀬）がございますが、国指定史跡は、大桑城跡が初めてであり、当市に所在する遺跡の歴史的価値が広く認められることを大変うれしく思います。

大桑城跡は、戦国時代に、美濃国守護土岐氏により築かれた山城跡と城下からなる遺跡で、遺構が良好な状態で保存されています。戦国時代における守護大名の本拠地の構造を知る上で重要であり、歴史的価値が非常に高い遺跡です。

これまでご協力いただいた方々に感謝し、今後は、大桑城跡を次の世代へ確実に継承できるよう、そして、より良い遺跡となるよう、地域の皆様とともに、保存・活用に取り組んでまいります。



中井 均氏 ひとし 滋賀県立大学名誉教授（日本城郭史）

守護の居所は通常平地に構えられますが、美濃国守護土岐氏は戦国時代、軍事的に対処するため山城として大桑城を築きました。山城ではありますが、守護の居城にふさわしく庭園を構え、石垣によって築かれています。さらに武威と権威を示す巨石を配置した岩門が構えられました。

こうした構造は守護の構えた山城として重要で国史跡にふさわしいものであります。これを機に保存と整備、そして活用が大いに期待されます。